

CAR No.34&35&36

Beyond

スーパーFJ

Altrex-RT

アルビレックス・レーシング・チーム

PRESS RELEASE

2011/ 11/20

スーパーFJ 富士シリーズ 第 6 戦

11月20日 決勝 1LAP=4.563.km

天候：晴れ コース：ドライ 気温：20℃ 湿度69% 路面温度：21℃

ドライバー：佐々木 崇（アルビ RT ビヨンド EDKKS #34）

福島 政也（アルビ GIA ビヨンド EDKKS #35）

田中 正隆（アルビレックス RT 玉三郎 10V #36）

**富士シリーズ最終戦、田中選手は巧みな
マシンコントロールでシリーズランキング 10位獲得
福島選手は3度目のポイント獲得、佐々木選手は自己ベストを記録！**

11月19日（土） フリー走行

台風並みの雨により、路面上に川を越え、池ができるような状況の中マシン調整に入るが、明日の予選・決勝が曇りもしくは晴れの予報のため、タイムアタックをせず走行を終える。

11月20日（日） 予選

天候は回復傾向にあり、雨は落ちていない状況だが、路面は濡れている状況。他カテゴリーの走行を見たところ、タイヤからしぶきが上がっている様子であったため、8:50の予選開始15分前までタイヤ選択に悩むことになる。他チームのタイヤ選択の状況を見ながらギリギリまで判断を待ったが、太陽が時折顔を出すも、まだタイヤからはしぶきが上がる状況のため、全車レインタイヤでアタックに入る。

難しいコンディションの中、田中選手はトップから3.1秒離され7番手、福島選手は5.4秒離され9番手、佐々木選手はウェットに慣れない中、15番手を獲得。田中選手は決勝への期待がかかる

11月20日（日） 決勝

11時30分フォーメーションラップ開始。田中・福島両選手はスタートを決め、1つずつ

ポジションアップ。しかし、1コーナー進入時、田中選手のイン側にいた2台が接触、そのあおりをもらい1台が田中選手のリヤに接触、マシンに軽いダメージを負ってしまう。田中選手はスピンしないよううまくマシンをコントロールし6番手をキープするが、そのまま苦しい戦いを強いられることになった。一方の福島選手はスタート直後の1コーナーのトラブルをギリギリで回避し、8番手で混乱を抜けた。佐々木選手はジャンプスタートしてしまい、ドライブスルーペナルティを喫する。

田中選手は後続車からのプッシュによるダメージを負ったマシンをコントロールしながら中盤まで入賞圏内の6番手をキープするも、レース後半戦についてパスされて7番手に落ちてしまう。福島選手も中盤に後続車に1台パスされ9番手、その混乱の中、もう1台にもパスされ10番手にポジションダウン。

そのまま田中選手はダメージを負った車をコントロールしながら7番手でチェッカー。4ポイントを獲得し、富士シリーズポイントランキング10位で今年のレースを終えた。

福島選手もそのまま10番手でチェッカーを受け、1ポイント獲得。佐々木選手はドライブスルーペナルティ後果敢にアタックし、予選より4つポジションを上げて自己最高成績となる11番手でレースを終えた。

田中選手コメント

一時は入賞圏内を走行できたものの、結果的に入賞を逃してしまい非常に悔いの残る結果となりました。今年度の結果を踏まえ、来年度も継続して続けていきたいです。今年もアルビRTの一員として参戦させていただきありがとうございました。

福島選手コメント

最終戦なので一番いい成績を残したかったのですが、10位という結果になり悔しいです。今年以上の結果を残せるよう、来年に向け動き始めたいと思います。今年1年間サポートしていただきありがとうございました。

佐々木選手コメント

最終戦で自己ベストを記録することができました。来年に関してはまだ未定ですが、今年1年ARTで走らせていただきありがとうございました。

中村監督コメント

今回は表彰台を狙っていましたが、非常に残念な結果です。タイトなスケジュールの中、富士シリーズに関しては田中選手が2回入賞し、シリーズポイントランキングも10位獲得したことで非常に前進できた年でした。来年に向けて富士シリーズの調整をしていきます。





 Nankai Plan Co.,Ltd.



鈴木会計
埼玉・川口
<http://www.tkcnf.com/eds>

